

(有)旭養鶏舎の「産直こめたまご」を 8月1回から再開します!!



旭養鶏舎さんへ

我が家では、すでに成人した4人の子どもたちや祖父母との大家族の食卓にいつも生協の卵がありました。殻も固く、割ると黄身がぷっくり盛り上がってつやがあり、今でも登録して毎週届けてもらっています。皆を育てていただいたと感謝しております。この度、鳥インフルエンザが発生したと聞き心配しています。家族同様、愛情をもって育てておられるであろう可愛い鶏を何故殺処分しないといけないのか…と、ほかに方法はないのか…といつもニュースのたびに思います。今まで同様、これからも旭養鶏舎さんのファンです。お身体に気を付けて、一步一步、前に進んでいかれますよう、お祈りいたします。これからは孫たちも育てていただけるように… (にじいろうさん)



昨年10月末に鳥インフルエンザに見舞われた(有)旭養鶏舎では、大切に育てられていた約40万羽の鶏がすべて殺処分となり、その日からたまごの供給もストップしました。あれから約9か月…(有)旭養鶏舎では長期にわたる消毒作業を終え、新たな鶏の導入から、こつこつと社員の皆さんの力を合わせて「産直こめたまご」の供給再開の日を迎えられました。この間、組合員みなさんからは、心温まるメッセージやたくさんの支援募金を寄せていただき、本当にありがとうございました。あらためて、生協しまねの産直は、組合員とお取引先がともに歩みを進める取り組みであると感じています。

これから私たちにできることは、まだまだ再建までの道のりがきびしいお取引先を支える気持ちを忘れずに、私たちの「産直こめたまご」を利用していくことだと思います。

私たちが待ちに待った「産直こめたまご」。私たちが毎日食べ続けてきた大好きな「産直こめたまご」。

8月1回より私たちの食卓に戻ってきます。

引き続き、(有)旭養鶏舎への応援とご利用をよろしく申し上げます。



日頃より「産直こめたまご」をご利用いただきまして厚く御礼申し上げます。

昨年、10月末に当社において鳥インフルエンザが発生いたしました。その後、生協しまね様への鶏卵供給が止まり、組合員様への産直こめたまごのお届けが出来なくなってしまいました。その後は、生協ひろしま様の生産者さんに代理納品をして頂きまして本日に至っております。その間、組合員様には長年にわたりご利用頂いております産直こめたまごのお届けが出来ず大変ご迷惑・ご不便をお掛けいたしましたこと心よりお詫び申し上げます。この間、生協しまね様・組合員様からお見舞い、また励ましのお言葉を多数頂戴いたしまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今年に入り3月上旬から新たに鶏を迎え入れまして鶏卵生産を再開し、8月より生協しまね様への鶏卵供給再開を迎えることができました。

再開後はこれまで同様に産直こめたまごをご愛顧頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

有限会社 旭養鶏舎
代表取締役社長 竹下靖洋



利用登録 「利用登録」で毎週お手元に「産直こめたまご」が届く安心を!!

「利用登録」ってなあに？

注文書を提出しなくても自動的に登録商品をお届けする仕組みです。毎週欠かすことができない必要なものは利用登録しておく安心です。翌週のお休みも簡単に手続きできます。



19159
10個産直こめたまご



19164
20個産直こめたまご



19156
15個産直こめたまご



19288
10個産直こめたまご小玉

生協しまねの

「産直こめたまご」ってどんなたまごなの？



低温流通で鮮度を保って お届けしています

～養鶏場からご家庭まで低温流通は生協だけ！～

採卵後のパック詰め

コープCSネット冷蔵流通センター



生協しまねの各支所

組合員さんのお手元



この間、すべて10℃以下の温度帯で流通していますので新鮮なままの卵をお届けしています。

生協の卵をゆで卵にすると殻が剥きにくいのは、温度管理がしっかり行われ鮮度が良いという証拠です。



飼料米を食べて育った 鶏が生む卵です



エサの20%に飼料米（玄米）を配合しています。

日本の畜産業は輸入穀物に大きく依存しています。家畜の餌となる飼料穀物の国内自給率はわずかに26%といえます。卵を産む親鶏の餌もその原料となる穀物は70%以上を輸入に頼っています。親鶏の餌に飼料米を与えることにより、食料自給率、飼料穀物の自給率向上につながります。

エサの34%を占めるトウモロコシは、アメリカの契約農家で栽培され分別流通管理されている、収穫後に農薬を使用していないものを使用しています。



耕作放棄地の解消と 循環型農業の推進



高齢化・農業人口減少により耕作放棄地が増えています。荒廃した田畑を元に戻すには時間と労力がかかります。耕作放棄地を使って飼料米の栽培を行うことは島根の豊かな自然を守ることにつながります。

地元で飼料米を作り、それを食べる親鶏が産む卵を私達が食べる。成長過程から出る鶏糞は有機堆肥として完熟させ、飼料米を作る田んぼに返す。それを栄養にして翌年に飼料米が育つ循環の仕組みができます。

